

## 編集室

## 抵抗勢力について

子どものころは、なんでおじさんたちは新聞を読んで、政治を議論するのか、不思議だった。最近はずっかりおじさんになって、政治や経済の本をよく読む。世の中を動かしている現場がかなり、身近になってきたからだろう。

元経済産業省官僚の古賀茂明氏が書いた、「日本中枢の崩壊」がおもしろかった。ベストセラーなので、知っている人も多いでしょう。この本、つまり官僚の省益優先主義が国を滅ぼす、というようなことが非常にリアルに書いてある。この古賀氏、省益に反する主張や行動のため、上層部に疎まれ、閑職に追いやられ、とうとう辞職してしまう。読者は、理想の実現に正々堂々邁進する氏に感情移入すると同時に、彼を苦しめる官僚組織のことを理不尽と悪の権化と思わずにはいられない。

本も終わりに近いところで、医療政策について言及してある。気持ちよく流れていた勸善懲惡ストーリーが突然止まった。「医療界も自由・混合診療をうけいれ、医療の較差を容認することで国際競争力を獲得しなければ…」とある。そうか、彼らからみれば、われわれ、医師は既得権益者の側にいるのだ。ご存じのように日本医師会は会をあげて医療費削減反対、混合診療反対を唱えている。事が身近になった瞬間、古賀氏を追い出した側の視点が、現実味をもって見えてきた。

もし医師会に古賀氏みたいなのがいたらどんな人物だろう。たとえば彼は、医療費の削減が、社会全体の利益に貢献する、と訴える。非常に有能な彼は、医者を敵に回しても世間の支持を得るすべを知っているので、大きな「改革」が実現する。一般社会はその恩恵にあずかるが、一方、われわれ医師（特に開業医か…）は収入が減る。予定していた旅行は資金不足でとりやめ。ぜいたくな食事や買い物もお預け。そんな「不幸せ」をもたらず人物が台頭し始めたら、わが医師会も黙ってはいないだろう。彼の身分や行動を制限しなければ。官僚組織がそれをしたように。

大阪の橋下新市長はすごいと思う。彼がやっていることは、そのような「改革」であり、かつ大胆なリストだ。だからマスコミではヒーローだが、大阪ではむちゃくちゃに嫌われているらしい。彼によって贅沢を奪われた人（公務員だけど）がごまんといっているのだから。

私はここで、医師会の主張が間違っていると言っているのではない。自由診療や混合診療賛成なのでもない。ただ、社会の中で「既得権益」が増えてくると、みんながそれを守ろうとして物ごとがなかなか決まらない。生産的でなくなる。そして、国が衰退してしまう。日本はどうやら、そういった過程に入っているように思える。

(小園 亮次)

## 広島県医師会速報 2012年(平成24年)1月5日

- 発行所／社団法人 広島県医師会  
〒733-8540 広島市西区観音本町一丁目1番1号 TEL.082-232-7211 FAX.082-293-3363  
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail kouhou@hiroshima.med.or.jp
- 編集者／広島県医師会長 碓井 静 照
- 印刷所／レタープレス株式会社  
〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL.082-844-7500 FAX.082-844-7800